

中小企業景況調査結果

【平成30年4月～6月】

富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率69.5%)を対象に、
「平成30年4月～6月」までの3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…30年1月～3月 今期…30年4月～6月 来期…30年7月～9月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

| 主要DI | 前回調査 | | 今期調査 (前年同期) | | 来期予測 |
|------|-------|---|------------------|---|-------|
| 業況 | ▲9.1 | ↓ | ▲18.4 (▲14.9) | → | ▲20.4 |
| 売上 | 0.0 | → | ▲4.4 (1.4) | → | ▲4.5 |
| 採算 | ▲23.6 | → | ▲26.3 (▲14.8) | ↗ | ▲19.8 |

今期調査では、全産業合計の売上・採算DIともに弱含みの横ばい、29年度第2四半期より緩やかに上昇を続けていた業況DIも下降に転じた。また、来期予測については、全産業合計の業況・売上DIは横ばい、採算DIは上昇の予測となった。

産業別にみると、小売業の今期の主要DIは全て下降、卸売業の来期予測の主要DIは全て下降となった。一方、サービス業は今期の業況DIが下降した以外は上昇しており、来期の売上・採算DIについてはプラスの予測となった。

コメントでは、「原材料・燃料費や人件費の上昇を販売価格へ転嫁できない」など先行きを懸念する声が散見されるようになり、景気回復に陰りが見えてきている。

経営上の問題点では、製造業は「商品・原材料仕入価格の上昇」、建設業は「人材不足」、卸売業・サービス業は「過当競争」、小売業は「売上減に伴う利益減」が1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

[業況のDI] 製造業は横ばい。建設業、卸売業、小売業、サービス業は下降。

来期は、サービス業は上昇を予想。製造業、小売業は横ばいを予想。建設業、卸売業は下降を予想。

| 業種 | 前期 | | 今期(前年同期) | | 来期予測 |
|-------|-------|---|---------------|---|-------|
| 製造業 | ▲8.3 | → | ▲5.4 (▲2.7) | → | ▲8.1 |
| 建設業 | 15.4 | ↓ | 0.0 (▲9.4) | ↓ | ▲7.1 |
| 卸売業 | ▲5.0 | ↓ | ▲14.3 (0.0) | ↓ | ▲23.8 |
| 小売業 | ▲15.0 | ↓ | ▲40.0 (▲45.0) | → | ▲42.9 |
| サービス業 | ▲31.1 | ↓ | ▲40.0 (▲32.0) | ↗ | ▲30.0 |
| 全産業 | ▲9.1 | ↓ | ▲18.4 (▲14.9) | → | ▲20.4 |

[売上高のDI] サービス業は上昇。建設業は横ばい。製造業、卸売業、小売業は下降。

来期は、製造業、サービス業は上昇を予想。小売業は横ばいを予想。建設業、卸売業は下降を予想。

| 業種 | 前期 | | 今期(前年同期) | | 来期予測 |
|-------|-------|---|---------------|---|-------|
| 製造業 | 5.6 | ↓ | 0.0 (2.7) | ↗ | 8.4 |
| 建設業 | 19.3 | → | 17.9 (18.7) | ↓ | 3.5 |
| 卸売業 | 5.0 | ↓ | ▲4.8 (18.5) | ↓ | ▲28.6 |
| 小売業 | ▲10.0 | ↓ | ▲33.4 (▲30.0) | → | ▲28.6 |
| サービス業 | ▲20.7 | ↗ | ▲10.4 (▲15.4) | ↗ | 6.9 |
| 全産業 | 0.0 | → | ▲4.4 (1.4) | → | ▲4.5 |

[採算のDI] 卸売業、サービス業は上昇。建設業は横ばい。製造業、小売業は下降。

来期は、製造業、サービス業は上昇を予想。建設業は横ばいを予想。卸売業、小売業は下降を予想。

| 業種 | 前期 | | 今期(前年同期) | | 来期予測 |
|-------|-------|---|---------------|---|-------|
| 製造業 | ▲22.2 | ↓ | ▲37.9 (▲5.4) | ↗ | ▲16.2 |
| 建設業 | ▲7.7 | → | ▲10.7 (▲15.7) | → | ▲14.3 |
| 卸売業 | ▲35.0 | ↗ | ▲23.8 (0.0) | ↓ | ▲33.4 |
| 小売業 | ▲30.0 | ↓ | ▲42.8 (▲50.0) | ↓ | ▲52.4 |
| サービス業 | ▲27.6 | ↗ | ▲16.7 (▲15.4) | ↗ | 3.5 |
| 全産業 | ▲23.6 | → | ▲26.3 (▲14.8) | ↗ | ▲19.8 |

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【低 調】

『製紙』…「原材料、資材の値上がりが今後も続くと予想されており、見通しは暗い。」との声。「従業員の募集において、日勤の応募はあるが、三交替の仕事は無反応で採用難である。」「各社とも製品値上の方向で検討を進めている様であるが、具体的な話に至っていないよう見える。」との情報。

『紙加工』…「生産過剰のように思われる。」「家庭紙メーカー各社が順次生産を拡大している為、供給過剰が懸念される。」との一方「製紙メーカーからの受注が少しずつ落ち着いてきている。」との声。「日本製紙にて停機の話があり、今後の動向がわからない状況である。」「人材確保が難しい為、既存人材の育成、多能工化が必要となってきた。」とのコメント。

『機械器具』…「県内需要は減少傾向、県外需要は増加傾向である。」「業界全体は好調だが、当社においては、メイン顧客の輸出不振により低調であり、9月までは在庫調整が行われると思われる。」との声。

「2017年9月に適用されたトラック排出ガス規制による駆け込み需要の反動に悩まされてきたが、各社が2017年に発表した新型トラックの投入効果が出てきた。」「国内貨物輸送の需要増加や景気回復に伴う買い替え需要の活発化などにより、引き続き緩やかに回復する見通しである。」「米国の関税引き上げが実行された場合、日本の製造業への影響が懸念される。」「春先まで仕事量が多く人員不足だったが、夏に向かって落ち着いてきた。また、秋ごろに仕事量が増え、人手不足になりそうである。」とのコメント。

『機械部品加工』…「主要顧客の生産状況は増加傾向にある。国内・海外向けともに10%程度の増加となっている。他方では、過当競争により経営を圧迫されており、格差が広がっている。」「世界情勢が不安定であり、原材料の仕入価格も上昇傾向にある為、先行きは不透明である。」との声。「自動車部品は低調に推移している。工作機械部品等は中国等への輸出及び国内需要とも好調である。」との情報。

『印刷』…「紙媒体の需要減少により、あまり伸びしない。」とのコメント。

『食料品』…「二極化が加速的に進んでいる。また、大型店のバイイングパワーにより、値上げもままならなく、先々不安でいっぱいである。」「競争激化の為、販売価格の値上げが難しい。」「原料の仕入価格が上昇しても販売価格への転嫁は難しい。」「原材料価格はさらに上昇していくと思われる。」との声。
「新規販売ルートの開拓や独自の商品開発を進め、リーダーシップがとれる販売に取り組まなければ生き残れない。2020年に向けて様々変化している経営環境を素直に受け入れ、対策を練っていく必要を強く感じる。ローカルの零細企業を守るには、行政の力添えが不可欠である。」「消費者の商品に対する低価格志向は根強い。」「少量・大量どちらにも対応できる会社が重宝される時代である。」とのコメント。

「人員不足により、機械化は更に加速すると思われる。」「年末に向けて売上は多少上昇すると思われるが、これからの大忙期、人材の確保が課題。」との声。「メディアなどで紹介された食材は、売れ行きが良いが、一時的なもので長くは続かない。」「地域イベントに出店しているが、年々出店者が減少しているように思われる。」との情報。

『飲料』…「茶葉の需要が減少しているので、厳しくなると思われる。」との声。

| | 好転% | 不变% | 悪化% | 今期D I | 来期予測 |
|-----|------|------|------|-------|------|
| 業況 | 27.0 | 40.5 | 32.4 | ▲5.4 | 横ばい |
| 売上高 | 32.4 | 35.1 | 32.4 | 0.0 | 上昇 |
| 採算 | 13.5 | 35.1 | 51.4 | ▲37.9 | 上昇 |

〔建設業〕 景気ムード…【安定】

『総合建設』…「官民ともに工事の発注が少ない中、多数の業者が入札する状況にあるので、価格競争が激しく、利益は望めない。」「家庭紙関連の流通倉庫等の案件は出ているが、利益は見込めない。」とのコメント。「東京オリンピックの関係で、首都圏は活発化しているが、そのしわ寄せが地方に来ている印象を受けており、2020年までこの状態が続くのかと不安視している。」との声。「建設業における労働条件、環境の改善を進める必要性は大である。」「働き方改革法案などにより、一層の労働環境等の改善・改良を考慮することが必須。特に建設業では、人員不足は元より、人材不足・高齢化が進み、利益を得ることが難しい。」とのコメント。そのほか「新富士駅周辺の開発が遅れている。」との情報。

『一般住宅』…「建築に携わる職人が高齢化しており、跡を継ぐ技術者も減少してきている。」との声。「人口減、空家・空地問題等により、今後、業界のビジネスモデルが変化すると思われる。また、東京オリンピック以降は厳しそうである。」とのコメント。

『一般土木』…「公共工事は増えたが、落札が厳しい。」「中央病院の移転先が気になる。」との声。

『建設関連』…「東部地区は大変忙しく、今までに経験したことがない仕事量である。新東名工事もあと3年は続くと思われ、また民間についても少しづつ良い方向に向いていると感じている。」との一方「オリンピックによる建築ラッシュに伴い受注単価が上がっているが、オリンピック需要終了後は不安である。」「受注は増加しているが、単価が厳しい。」「競争力の低下と売上減により、見通しは暗い。」とのコメント。「消費税率引上げに伴う駆け込み需要が発生すると思われるが、毎回その反動に苦慮している。」との声。「看板業では、同業他社の廃業が毎年発生している。高齢化・後継者問題、またサイン用マシンの価格が安価になり、異業種からの参入もある。」とのコメント。

『土木関連』…「先行きが見通せず、不安である。」「販売先の理解を得られず、販売価格を上げることが難しい。」との声。造園関係では「公共工事が全くなかった。民間は、庭木伐採・強剪定が多くなってきた。」

「造園管理の入札では、低価格競争が多くなり、厳しい状況である。」「公共工事設計労務単価が引き上げられ、公共工事の予定価格は上昇したもの、過当競争により実質は下降落札が目立つ。また、民間においては、公共労務単価の引き上げが反映されにくい状況である。」とのコメント。

| | 好転% | 不变% | 悪化% | 今期△I | 来期予測 |
|-----|------|------|------|-------|------|
| 業況 | 21.4 | 57.1 | 21.4 | 0.0 | 下降 |
| 売上高 | 42.9 | 32.1 | 25.0 | 17.9 | 下降 |
| 採算 | 21.4 | 46.4 | 32.1 | ▲10.7 | 横ばい |

〔卸売業〕 景気ムード…【低調】

『機械器具』…「生産は、未だ海外へシフトしている様子が見られる。」「材料など仕入価格の上昇が目立つ。」「製紙業界は工場が新設され、今後は修繕等の需要が少しづつ増えていくと思われるが、大手製紙会社の一部稼働停止の報道もあり、先行きは不透明である。」との声。事務機器では「他市の同業者が富士地域にて集中的に安売り販売を行っており、過当競争となっている。」コメント。

『自動車部品』…「全国的に売上不振のようである。東日本大震災の影響による新車販売不振だった年から丁度7年となる為、今年は車検台数が少ない年にあたる。また、ハイブリット車の占める割合も年々大きくなり、交換部品の需要は減少する一方である。」とのコメント。

『紙』…「市場は今後もシュリンクしていき、二極化が益々進むと思われる。」「来年度、日本製紙富士工場の洋紙抄紙機を停止するというプレス発表があった。紙のまち富士市の衰退が懸念される。」との声。

『製紙原料』…「中国の古紙輸入規制の影響が広がっており、市況は軟化している。中国国内の古紙不足という実態を中国政府がどのようにコントロールしていくか注目している。」「産業古紙の発生は悪化。中国の環境規制の影響で、輸出において裾物三品（段ボール古紙・雑誌古紙・新聞古紙）の動きが悪く

大変である。」とのコメント。「家庭紙メーカーの新工場が次々操業し、順調に稼働し始めているので、今後の原料の動きが気になる。」「古紙は、新聞・雑誌類が低調、段ボールは需要あり。」「家庭紙は、夏にかけて需要減のため原料も停滞気味。」との情報。「生産効率が思わしくない会社は統合されていく可能性大である。」とのコメント。

『再生資源』…「高炉メーカーの上級層購入に加え、電炉、特殊鋼メーカーを中心に生産が高水準に推移し、鉄スクラップは値上がりした。しかし、アジア向け輸出の商談が伸び悩み、天井感が出始めている。」「国内で発生する鉄に付着する非鉄は中国で処理されていたが、この春より輸入禁止となつたことにより、未処理層が国内メーカーに入り、不良製品の発生増が問題化している。」と情報。

『工業薬品』…「家庭紙、段ボールは好調の様子であるが、印刷用紙は生産量の減少が続いている。」「家庭紙向けは順調に販売量を確保している。」との声。「大手紙メーカーの抄紙機停機による影響が出てきている。」「原油価格の値上がりに伴い、非常に厳しい状況になりつつある。」とのコメント。

| | 好転% | 不变% | 悪化% | 今期D I | 来期予測 |
|-----|------|------|------|-------|------|
| 業況 | 19.0 | 47.6 | 33.3 | ▲14.3 | 下降 |
| 売上高 | 33.3 | 28.6 | 38.1 | ▲4.8 | 下降 |
| 採算 | 14.3 | 47.6 | 38.1 | ▲23.8 | 下降 |

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…「少子高齢化による需要の低迷は、益々悪化すると思う。」との声。呉服では「観光地のレンタルゆかた等をマスコミが取り上げているが、一般の需要とは無関係である。今後も実需は更に落ち込む。」とのコメント。

『各種食料品』…菓子では「昨年9月より、新たな加工食品の原料原産地表示制度が始まったことにより、輸入材料を使っていた大手が国産品に切り替え始めた。その為、中・小規模店は国内材料の確保が厳しくなっている。」との声。青果では「販売低迷により廃業する店舗が増加しており、青果市場の存続すら難しいと思われる。」とのコメント。

『生花』…「官公庁が花などに無関心であることが、全国的な需要の低下に繋がっているように感じる。企業においても同様で、花などに関して簡素化が進んでいる。」との声。

『日用品・雑貨』…メガネ店では「春先は入学・進学・入社などにより商品の動きが活発になり明るさが増した。また、7~8月はボーナス期となる為、多少は良くなると思う。」とのコメント。玩具では「依然として少子化は進んでいるが、大手メーカー・大手通販業者の牽引により、業界全体の市場規模としては横ばいの様である。自社が生き残る道は通販の拡大と考えているが、通販部門の売上は、少しずつ右肩上がりになっているものの、実店舗の落ち込みはカバーできていない。」との声。事務用品では「取引先の夏休みが長くなる傾向にあり、7~8月は営業日数が少なくなり、売上減となる。」とのコメント。寝具では「全国的にあまり良くなく、今後も見通しは暗い。」との声。

『自動車』…「生産・販売は上向きであるが、整備業は依然として厳しい。」とのコメント。

『自転車』…「各メーカーは、商品値上げの傾向にある。」との情報。

『機械器具』…「少しずつ良くなってきている。」との声。

『家電』…「4Kテレビ放送が12月から始まる。2020年東京オリンピックに合わせて4Kテレビの売上に期待が集中する。」とのコメント。

『その他』…「新富士駅の施設が大幅な改修をする様だが、駅新設時に入店業者が見つからない中、出店してくれた業者を切り捨てるかたちになってしまったのは、遺憾に思う。」との声。「商店街全体として生き残る手段を考えるべきであり、全体で協調しあうことが重要だと思う。」とのコメント。「JRグループと地方自治体等で実施するデステイネーションキャンペーンが来年行われる。本年度はプレキャンペーンとして吉原祇園祭で2つのイベントを行った。富士市の最大の祭りである吉原祇園祭を観光に役立て、また、今後

の吉原商店街の集客にも期待できそうである。」「吉原祇園祭が開催された。昨年より多くの来場者となり、まちが賑わった。」「8月から始まる『ふじのまち得ゼミナール』の参加にあたり、店のアピールを図っていきたい。」との声。

| | 好転% | 不变% | 悪化% | 今期D I | 来期予測 |
|-----|------|------|------|-------|------|
| 業況 | 5.0 | 50.0 | 45.0 | ▲40.0 | 横ばい |
| 売上高 | 19.0 | 28.6 | 52.4 | ▲33.4 | 横ばい |
| 採算 | 4.8 | 47.6 | 47.6 | ▲42.8 | 下降 |

〔サービス業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『飲食』…「少しづつ売上は上がっている。また、大規模店への出店が決まり多忙である。物販が厳しい為、飲食へのアプローチが多く、出店依頼が数件ある。」「市内の客数に変化はないが、客単価は低下傾向である。しかし、ホテル利用客の来店が増加傾向になっており、市外のお客が増えて客単価も市内のお客より高めである。」との情報。「業界全体の人材不足で、人件費及び募集に掛かる費用がアップしてしまい厳しい状況が続いている。」「夏場は売上が伸び悩む時期にあたるので、イベント等を打って全体的に売上を確保していきたい。」とのコメント。「7~8月の新富士駅構内は多くの富士登山客で賑わっているが、その時期、構内は工事中になると思われる。休憩や食事をするところがなく『おもてなしゼロ』となってしまうことを懸念している。」との声。

『クリーニング』…「クリーニングの取次店、コインランドリーが増えている。個店の技術・サービスの売りだけでは、取次店の低価格には対抗できない。」「業務用商品は、減少が止まりプラス方向に転じつつあるが、家庭用商品は減少が止まらない。」「労務費、資材、燃料等製造経費の上昇が利益を圧迫しており、先行きが不安である。」とのコメント。

『運輸・倉庫』…「燃料高騰による影響が懸念されるが、ほかは順調に推移している。」との声。「管理者側は、ドライバーを一度外に出してしまうと労務について全てを管理することは難しい。労務管理以外にも、ドライバーの高齢化、人手不足などの問題がある。今後も若い人材が流入してこない業界だと思う。」とのコメント。

『不動産』…「分譲地は増加傾向。工業系用地の需要は増加しているが、購入ではなく賃貸が多い。」「相続などで実家を処分するなど、土地処分の要望が増えている。一方、企業進出の話があっても、用地確保が困難である。今後、工業団地の確保が課題だと思われる。」「市全体に宅地造成分譲地が増加している。宅地需要は横ばいであるが、今後、消費税率引き上げによる駆け込み需要に期待したい。」との声。
「撤退する店舗、新規に入店する店舗の動きが激しいが、その新陳代謝は、まちが力強く変容していくエネルギーになると思う。長い目でみれば、変容可能な街は、活力を潜在的に持っているので、引き出しの選び方により魅力的な変革が可能だと思う。」とのコメント。

『各種学校』…「この地域の自動車学校にも値下げの波が徐々に来ている。」との情報。

『求人広告』…「競合他社との過当競争により、売上減が続くと思う。」との声。

『旅行業』…「旅行業界は横一線で変化がないと思われる。」「バス業界が良くなっているといわれるが、その分旅行業者は利益が薄くなっているように思われる。」とのコメント。

『専門サービス』…税理士事務所では「中小事業者の事業承継問題は、今後の需要を左右する。高付加価値サービスの提供が出来なければ、必然的に減少傾向となる。また、時代の変化に素早い対応が求められる。」「価格は、付加価値がつかないと下がってくる。競争も激しくなっているので、企業努力が必要である。」との声。

『デザイン業』…「専門性を活かす仕事の受注が薄くなっている。市内の印刷業界で、特殊な技術を承継している事業所がないので、県外の安価な会社へ依頼せざるを得ない。デザイン業界は、企画力が勝負になっているので、幅広い情報収集や連携の場が必要となっている。」とのコメント。

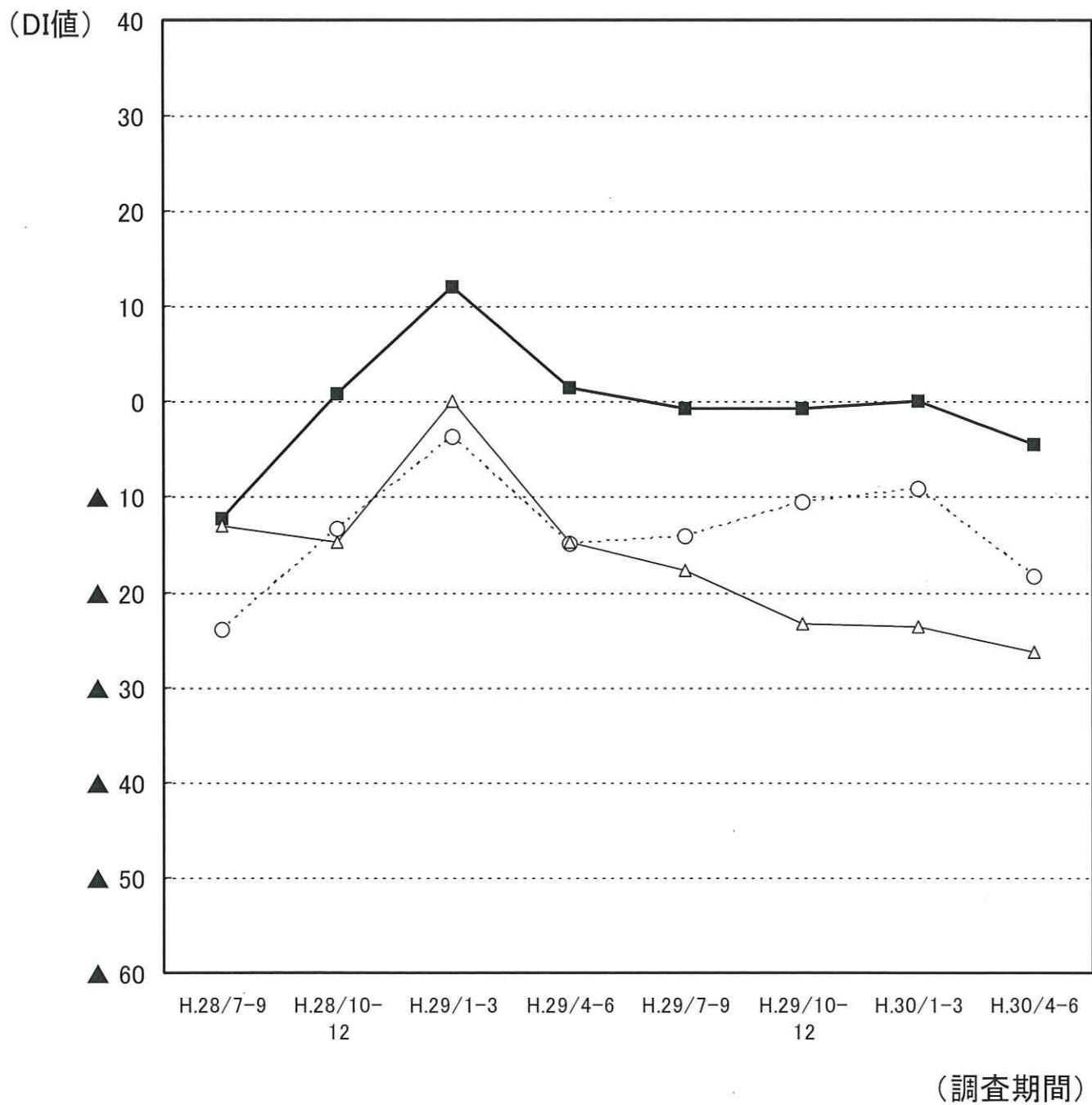
『イベント業』…「今年に入り、企業から地鎮祭・安全祈願祭の発注がある。設備投資に意欲的のように感じる。」との声。

『その他』…「6月は、軽トラ市・おかみさん会があり、それなりの来客がある為、期待している。来月はバルに参加したいと思っている。」とのコメント。

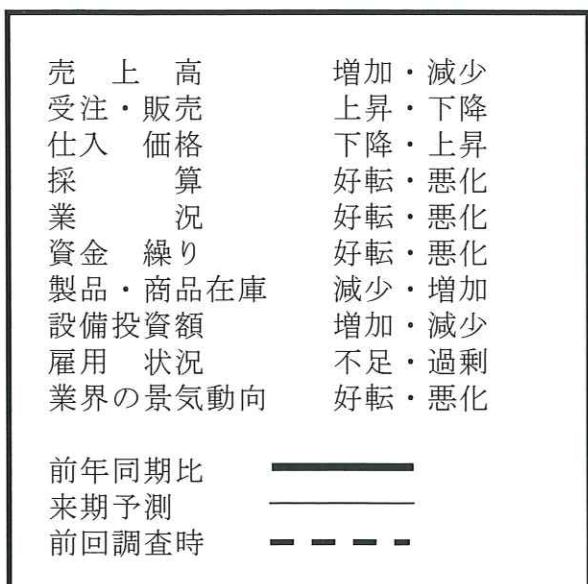
| | 好転% | 不变% | 悪化% | 今期D I | 来期予測 |
|-----|------|------|------|-------|------|
| 業況 | 10.0 | 40.0 | 50.0 | ▲40.0 | 上昇 |
| 売上高 | 24.1 | 41.4 | 34.5 | ▲10.4 | 上昇 |
| 採算 | 20.0 | 43.3 | 36.7 | ▲16.7 | 上昇 |

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

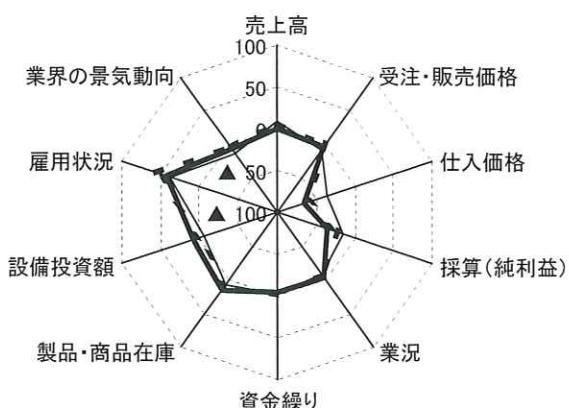
■ 売上 …○… 業況 △ 採算



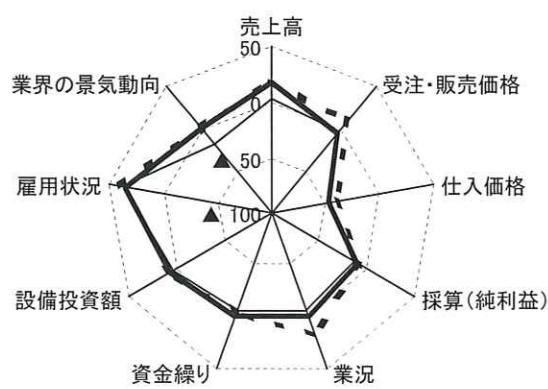
レーダーチャート



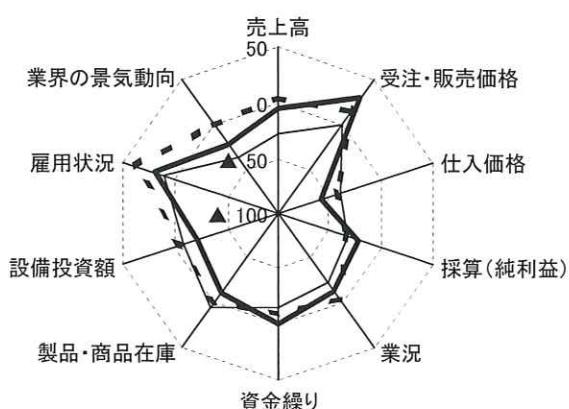
【製造業】



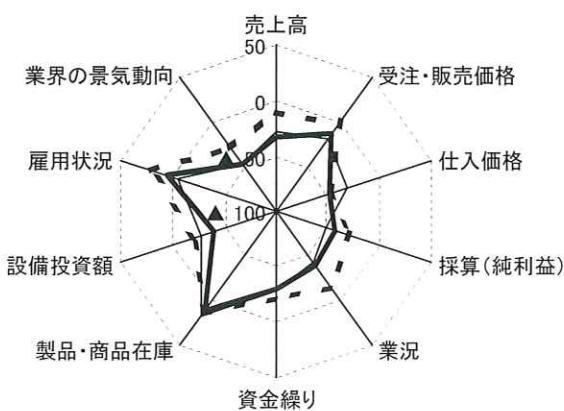
【建設業】



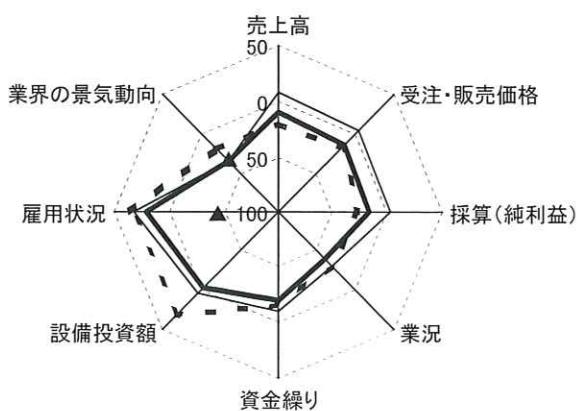
【卸売業】



【小売業】

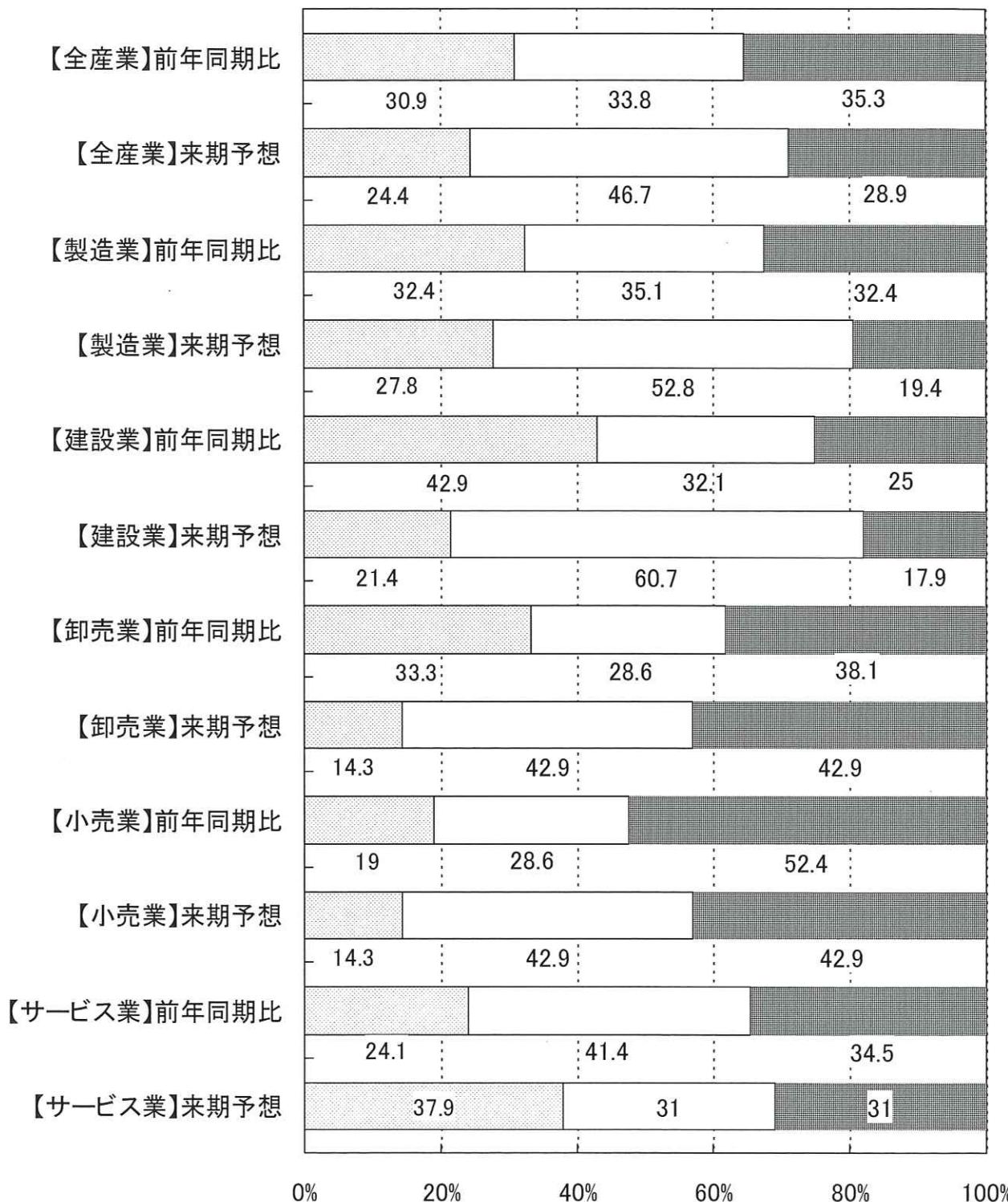


【サービス業】



売上高の前年同期比と来期予測

□ 増加 □ 不変 ■ 減少



◇ 経営上の問題点 ◇

| 産業別 | 上位回答項目 |
|-------|--|
| 製造業 | 1位 商品、原材料仕入れ価格の上昇 2位 設備老朽化 3位 人材不足 その他 販売価格値上げ難 |
| 建設業 | 1位 人材不足 2位 人員不足 3位 過当競争／人件費高騰 その他 設備老朽化 |
| 卸売業 | 1位 過当競争 2位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／人材不足 3位 その他の需要の低迷／販売価格値上げ難／売上減に伴う利益減 その他 売上、利益減による資金圧迫 |
| 小売業 | 1位 売上減に伴う利益減 2位 売上、利益減による資金圧迫 3位 販売価格値上げ難／過当競争／商品、原材料仕入れ価格の上昇 その他 その他の需要の低迷／販売価格の低下／設備老朽化 |
| サービス業 | 1位 過当競争 2位 人件費高騰 3位 設備老朽化 その他 人材不足 |